

講演会

『声』から探る近代文学— 昭和初期の自作朗読を聴く

講師：新井高子(詩人)



作家の肉声による作品朗読。

この音声が、今でも聞くことができるのはご存じでしょうか。

本講演会では、詩人の新井高子氏が、道立文学館のコレクションにも所蔵がある作家を含めた、昭和初期の作家の自作朗読を皆さんと一緒に鑑賞しながら、新鮮な切り口から日本近代文学を紐解きます。

新井先生の詩人ならではの視点からのお話をお楽しみいただければ幸いです。(使用音源：「文化を聴く～自作朗読の世界～」日本コロムビア)

2026

2月23日(月・祝)

14:00～15:30

当館講堂(無料)

*お電話でお申し込みが必要です。

011-511-7655 (北海道立文学館)

先着順、定員 60 名

新井 高子 あらい たかこ

1966年群馬県桐生市生まれ。慶應義塾大学大学院社会学研究科修士課程修了。埼玉大学教授。詩誌『ミテ』編集人。「声」の自在性や越境性に注目した詩の創作を続けるほか、唐十郎戯曲や口承文芸に関する批評や論考エッセイ等を執筆している。英訳詩集『Factory Girls』が第1回 Sarah Maguire Prize 最終候補となるほか、アイオワ大学国際創作プログラム2019、ロッテルダム国際詩祭2022などに招待されるなど国際的に活躍している。2008年詩集『タマシイ・ダンス』で第41回小熊秀雄賞受賞。2024年詩集『おしらかさま綺聞』で第6回大岡信賞受賞。

特別展「文学館コレクションの輝き」

2026年1月31日(土)～3月22日(日) 北海道立文学館特別展示室

収蔵時のまとまりを保って、それぞれの特色を発揮している「〇〇文庫」や「〇〇コレクション」などの個人名を冠する資料群。その魅力に着目して、皆様にご紹介する展覧会です。

